

## 瀬崎まちづくり市民会議へのご質問への回答

### Q. 設立時に一番苦労したのは何ですか？

- ★4つの町会自治会をエリアとしたため、町会自治会の活動への温度差があったこと。
- ★草加市行政のモデル事業として出発したため、行政・市民ともにパートナーシップの役割分担・方策が手探りであったこと。

### Q. 組織のメンバーはどのように集めたのでしょうか？

- ★町会・団体等の推薦、公募&声かけによって集めました。設立時は、町会推薦のメンバーが主な活動推進者でした。

### Q. 上下関係がなく、水平思考でまちづくりが進んだ背景には瀬崎地区というところには何か特別な基礎があったのでしょうか？

- ★上下関係・男女の差別などがないことはありません。他の地区より少し少ないだけです。
- ★浅間神社を鎮る・祭礼開催など、地域全体で、協働でひとつのことをしてきた地域であったこと。
- ★「住みよいまちをつくる会」※1、「ふれあいひろば瀬崎」※2など、瀬崎まちづくり市民会議設立以前にも、10～15年サイクルで対象地区のなかにコミュニティづくりの新しい動きが創り出していました。
- ※1「住みよいまちをつくる会」埼玉県委嘱事業、
- ※2「ふれあいひろば瀬崎」昭和63（1988）年始まる。地域の教育力向上、地域のふれあい促進を目的に小学校PTAから呼びかけ、瀬崎地区の多くの団体が参加しての地域まつりとなっている。
- ★行政が市内を分割して行政区域（福祉施策・教育施策上などでの）をつくる時、瀬崎地区は分割されなかった。小学校区がごく一部が分割されているのみなので、地域の住民相互の顔が見えやすい状態があったと思われます。

**Q. 先のクールへ持続可能とするための組織の維持の仕方やしきみづくりについて、お考えをお聞かせください？**

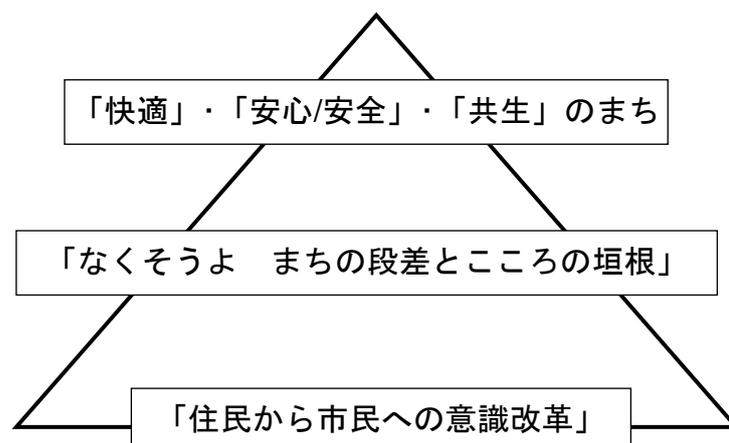
- ★ 瀬崎まちづくり市民会議でも、模索中です。毎年度後半に次年度のまちづくりの進め方などを検討する「事業検討委員会」を立ち上げて検討してきましたが、未知の手探り状態は続いています。
- ★ HOP・STEP・JANP の行程は、設立当初、理論上のこととしていましたが、現在から振り返ると、事業の進み具合が、種まき、育苗、収穫という行程とつじつまがあいました。

**Q. パートナーシップのまちづくりを進める上で住民としての心構えを教えてください？**

- ★ 設立当初に「まちづくりの考え方」を話し合ったときに、以下のような結論に達しました。現在でもそのように考えています。

**「住民から市民への意識改革」**

— 住民 (inhabitant—習慣・慣習を守る人) から、自立、自走、自治する市民 (citizen—個の確立と公的精神の両立) へ脱皮する



Q. 施設管理事業費以外の予算260万円の使途は。事業費の内訳を教えてください？

★216万円です。その内訳は以下の表を参照してください。

項目	金額	内容	
事務費	291,000円	コピー機メンテナンス費 事務消耗品費 電話料 IN通信費 資料費・印刷費・郵送費 等	
会議費	230,000円	会議室借用費 会議茶菓代 懇親会諸費用 等	
交通費	5,000円		
研修費	100,000円	講演会・研修費謝礼	
事業費	1,480,000円	イベント事業費	40万円
		ニュース編集費	10万円
		ゴミ減量プロジェクト費	10万円
		憩いの場づくり活動事業費	13万円
		まちづくり活動事業費	10万円
		地区詳細計画活動事業費	30万円
		子どもクラブ事業費	20万円
		元気アップクラブ事業費	15万円
予備費	54,000円		
計	2,160,000円		

Q. 「せざきマンションネット」の取り組みなどを教えてください？

【きっかけ】

瀬崎まちづくり市民会議の活動当初、公募で応募してきた人が事務局に4人いました。その4人は皆さん、マンション住まいで、事務局の会議が終わると、マンション管理組合の話をしていました。

☆うちのマンション、管理会社を変えたんだ、安いよ。→安かろう悪かろうなんてことない？→大丈夫みたいだよ、〇〇はするし…→そう。 ☆市役所に登録して廃品回収をすると、キロ当たり〇〇円の補助が市役所からもらえるから、収益金になるよ。ごみ集積所にためておくのもいいね。☆お宅のマンションは、ペットはOK？犬は？猫は？→最初は禁止だったのだけれど、中型犬までだったらOKにしたんだ。お年寄りには癒しになるからね。なんていう話題です。

そこで、その事務局員4人と、マンション自治会の会長（瀬崎まちづくり市民会議の副会長）を中心に、マンションの住民ならではの問題を情報交換・課題解決しながら、マンション住民に、まちづくりの情報も受発信すること、地元町会やまちへの溶け込みを自然にすることを目的に、マンションネットを立ち上げることにしました。

その活動内容は、以下のHPを参照ください。

せざきマンションネットの事務局をしている井ノ上さんに、三芳町から届いた質問を送ったところ、以下のコメント付きで返信されてきました。

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~saitama-smn/>

高橋様 井ノ上です。SMNのデータをおおくりします。三芳町のスタッフの皆さんに宜しくお伝えください。HPも現在調整中ですが、先様へご紹介ください。

SMNのHPです

## Q. 「みんなのまち草の根ネットの会」と「瀬崎まちづくり市民会議」の連携や関わりを教えてください？

★みんなのまち草の根ネットの会が、市制施行40周年記念事業「パートナーシップによるまちづくりシンポジウム事業」を行政とパートナーシップで企画運営し、そこから「新しいコミュニティづくり」への動きが始まりました。行政ではシステムづくりに取り組み、その事業のひとつ「パートナーシップによるまちづくり」モデル事業（現「地区まちづくり事業」）を平成12年度に市内2地区募集しました。そのモデル事業に手を挙げたのが、瀬崎地区です。モデル地区指定の翌年、「瀬崎まちづくり市民会議」は設立しました。

★「地区まちづくり事業」実施地区等のまちづくり団体の情報交換会を「みんなのまち草の根ネットの会」は平成13年から開催していますが、「瀬崎まちづくり市民会議」はまちづくりをリードしている団体として協力しています。

☆高橋さきえは、「みんなのまち草の根ネットの会」の事務局長で、「瀬崎まちづくり市民会議」の設立から関わっている主たるメンバーです。

「みんなのまち草の根ネットの会」で学んだまちづくりセンスを「瀬崎まちづくり市民会議」で活かしています。

「瀬崎まちづくり市民会議」の前事務所に、「みんなのまち草の根ネットの会」のNPO法人登記上の事務所を置かせてもらい、パソコンなども使用させてもらっていました。

**Q. 「みんなのまち草の根ネットの会」の6つのパーシャルネットは、設立後に一つずつ積み上げられたのでしょうか？それとも当初から6つの分野を合わせて立ち上げられたのでしょうか？**

★文部省委嘱事業を受けて活動していたなかで、誰にも住みよいまちをつくるための課題を、設立後パーシャルネットというかたちで立ち上げました。

委嘱事業の活動は、「男女共生」「地域づくり」「国際化」の三本柱で行ないました。

設立1年後、6つのテーマ「男女共生」「地域づくり」「国際化」「子育て支援」「地域の子育て」「高齢者・障害者」の委員会や部会ではない、フレキシブルな集合体であるパーシャルネットを立ち上げました。

現在、「子育て支援」「地域の子育て」は統合され、「子育て」、「調査研究」を加えて6つです。